

上下水道部会の設立 記念し広島で講演会

日本技術士会
中国本部

公益社団法人日本技術士会中国本部上下水道部会は8月27日、今年4月の設立を記念した例会・講演会を広島市内で開催した。講演会では鳥取大学理事・副学長の細井由彦氏ら産官学から3題の講演が行われ、3カ所（東

京都・名古屋市・新潟市）のWEB中継を含む参加者は約80人になった。

例会では、同部会長の今井田敏宏・復建調査設計保全構造部技術次長をはじめ、副部長2人、幹事9人の紹介、設立前に準備活動

していた平成26年度事業報告、同27年度事業計画などが説明された。

細井氏は「人口減少時代の上下水道」と題して基調講演。上下水道局計画調整課長補佐は「広島市8・20

（13・3％）、破損延長1040km（1・6％）に及び、被害48カ所（破損12カ所・閉塞36カ所）は、全て復旧済あるいは仮復旧となっている。

産官学から3題の講演 人口減少対応の必要性強調

た。例会では、同部会長の今井田敏宏・復建調査設計保全構造部技術次長をはじめ、副部長2人、幹事9人の紹介、設立前に準備活動

した。

講演会では冒頭、今井田部会長が「上下水道部会が初主催の講演会で、実り多い成果を」とあいさつ。大田一夫

道は建設や維持管理が長期にわたり、他用途に使用できない問題を指摘しながら、広域化や集約化、スポット対応などの取り組みを説明し、「人口減少に対

する戦略では、連携や分散自立について、その程度、タイミングを見極めることが重要」と強調した。

小笹山秀夫・広島市下水道局計画調整課長補佐は「広島市8・20



今井田部会長



細井氏

土砂災害について」で、下水道の被災・復旧状況などを紹介。被災現場周辺の埋設管調査（延長6万4100m）の結果、土砂などの堆積延長8510m

を述べた。

松延紀至・水みらい広島事業推進部長は「水みらい広島の設立経緯と今後の展開」について、民間過半数出資の公民協同企業体として、広島県営水道（水道用水供給水道・工業用水道）の指定管理の現状などを披露。「水道界のイノベーションに貢献し、新たな公民例のモデルに」と決意を述べた。

上下水道部会を設立

技術士会
中国本部
会員の資質向上へ

日本技術士会中国本部
上下水道部会（今井田敏
宏部会長）は8月22日、
広島市内で設立記念例会
・講演会を開いた。同部
会は、中国地方5県の上
下水道部門の技術士45人
により今年4月に設立さ



WEB中継も活用



今井田部会長

れ、講演会等を通じて会
員相互の交流や会員の資
質向上を目指している。
講演会には同部会会員
ら約50人のほか、WEB
中継により東京統括本
部・名古屋市の中部本部、
新潟市の北陸本部の会員
らも参加、合計約80人が
講演を聴講した。
あいさつに立った今井
田部会長は同部会の設立
経緯や活動について説明
した後、「中国本部の上

下水道部会が発足して初
めの講演会で喜ばし
い。皆さんにはこのよう
な機会を活用していただ
き、自己研鑽の一助とし
ていただきたい」と述べ
た。

また、鳥取大学の細井
由彦理事・副学長が「人
口減少時代の上下水道」
をテーマに基調講演。人
口減少の実態や影響を分
析し、上下水道事業での
課題と対策を抽出した。
広島市下水道局の小笹
山秀夫計画調整課長補
佐は、昨年8月の広島市
北部での局地的大雨によ
る土砂災害について講
演。下水道の被災状況、

復旧状況を多くの写真で
報告した。民有地の土砂
撤去についても報告、約
31万立方分の土砂、かれ
きを撤去したという。
水みらい広島松延紀
至事業推進部長は、平成
24年に設立された同社の
設立経緯と今後の展開を
紹介した。指定管理者制
度による広島県営水道の
管理運営の概要を説明、
さらに事業展開の方向性
として、指定管理業務な
ど堅実に守っていく分野
と、県内市町水道の運転
管理、システム販売など
新規事業を成長させてい
く分野の二つの方向性を
示した。

また、鳥取大学の細井
由彦理事・副学長が「人
口減少時代の上下水道」
をテーマに基調講演。人
口減少の実態や影響を分
析し、上下水道事業での
課題と対策を抽出した。
広島市下水道局の小笹
山秀夫計画調整課長補
佐は、昨年8月の広島市
北部での局地的大雨によ
る土砂災害について講
演。下水道の被災状況、